

東北大学附属図書館

— 自己点検・評価報告書 —

平成19年(2007)年3月

平成18年度附属図書館公開活動等



パネルディスカッションで司会をする倉本副館長

国際シンポジウム 「求められる図書館 サービスとスタッフ・ ディベロップメント」



ニュージーランド、オーストラリア、スウェーデンから
参加された講演者



会場の様子

平成18年度 図書館職員総合研修会



お茶の水女子大学図書・情報課長 茂出木理子氏



東北大学医学系研究科教授 大隅典子氏

H18年 企画展



開会式（左から野家館長、圓山総長特任補佐、吉本総長、
佐々木宮城県教育委員会教育長、伊達宮城県図書館長）



展示資料を鑑賞する来賓者



体験コーナーで学ぶ小学生

図書館自己点検・評価報告書「まえがき」

東北大学附属図書館長 野 家 啓 一

東北大学は本年（平成19年）6月22日に創立百周年を迎えます。それからすると附属図書館は設置から96年目、川内地区に本館が新築開館してからは34年目を迎えることになります。この間、附属図書館の充実と発展にご尽力いただいた皆様方には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

平成16年4月の国立大学法人化は、附属図書館にとってもその存立基盤を揺るがす大きな出来事でしたが、厳しい財政事情と人員削減のなか、図書館は本学の学術情報戦略の中核拠点として学習支援、研究支援、社会貢献等の役割を果たすべく最大限の努力を積み重ねてまいりました。本報告書は、その法人化以降の図書館活動について「自己点検評価」を行い、今後の改善の道標とするために纏めていただいたものです。来年度中には、この報告書を基礎資料として、附属図書館の外部評価をお願いする予定であります。

さて、本図書館は小田忠雄元館長のもとで「ミッション声明」を策定しましたが、それを受けて平成18年度には現状把握と将来構想のために、6項目からなる「東北大学附属図書館の主要課題」をまとめました。具体的には、（1）事務組織の業務一元化、（2）施設・設備の拡充、（3）財政基盤の強化、（4）電子化への対応、（5）サービス機能の強化、（6）社会貢献、がその柱となっています。

このうち（1）と（2）については、青葉山新キャンパスへの移転を契機に「理系新分館」を新設し、川内（本館）、星陵（医学分館）、青葉山（理系新分館）の三館構想のもとで業務の一元化を実現したいと考えています。理系新分館については、ラーニングコモンズを含んだ新しい形の図書館計画をワーキンググループの努力により短期間のうちに作成していただきました。（3）の財政基盤に関しては、電子ジャーナル経費の「全学共通経費化」という積年の課題が、井上新総長のもとで策定中の「井上プラン」の中に「電子ジャーナルを含む学術情報コンテンツ経費の全学的な基盤経費化を進める」という形で明示的に組み入れられることになりました。これによって、長年の懸案であった事項が解決へ向って一步を踏み出したことになります。

また（4）については、現在の図書館は紙媒体と電子媒体とが共存するハイブリッド・ライブラリーの構築が急務となっていますが、その一環として昨年12月に「東北大学機関リポジトリTOUR」を立ち上げ、公開することができました。TOURは教育成果の蓄積と公開を特色とするものであり、今後はコンテンツの充実に努めていくつもりです。（5）では情報リテラシー教育推進のため、図書館職員が中心となって編集した『情報検索の基礎知識』5部作がこの3月に完成しました。このプロジェクトは学外の評価も高く、平成17年度の「国立大学図書館協会賞」および「総長教育賞」を受賞したことを特記しておきます。最後の（6）社会貢献では、毎年企画展の充実が挙げられます。とりわけ昨年メディアテークで開催された「江戸の遊び」展は宮城県図書館との連携協力のもとに企画・運営され、これまでにない入場者を集めることができました。また、本年秋には百周年記念展示「東北大学の至宝」および「文豪夏目漱石展」が江戸東京博物館において開催される予定になっています。ほかにも、昨年11月に行われた国際シンポジウム「求められる図書館サービスとスタッフ・ディベロップメント」や、この6月には中国の清華大学図書館との交流を予定するなど、今後は国際貢献にも力を注いでいく所存です。

以上のように、本学図書館は職員の献身的な努力によって活発な活動を展開してまいりましたが、まだまだ至らない点も多いかと思われます。それらの点については、本報告書をご高覧の上、厳しいご叱正とご鞭撻を賜れば幸いです。最後になりましたが、利用者アンケート調査の整理・分析をはじめ、本報告書の作成に多大のご尽力をいただきました自己点検評価ワーキンググループの皆様にご心より感謝の意を表します。

平成19年3月

目 次

第1部 東北大学附属図書館 ー自己点検・評価ー

1. はじめに	1
2. 法人化後の変化	2
1) 学術情報基盤に立脚した特色ある図書館経営	2
2) 法人の事務組織として標準的な経営スタイル	2
3) 図書館長・図書館管理職の積極的な役割	2
4) 学術情報基盤として機能するための専門的職員の養成・確保	2
3. 組織・運営	3
1) 附属図書館の構成	3
2) マネジメント	3
3) 人材の確保と養成	3
4) 財政基盤	4
5) 学術情報基盤	4
6) 研究開発機能	5
7) 学内外機関との連携	5
① 東北大学情報シナジー機構との連携	5
② 国立大学図書館協会との連携	5
③ 東北地区大学図書館等との連携	6
④ 国立情報学研究所との連携	6
⑤ 外国雑誌センター館	6
8) 広報活動	6
4. 施設・設備	7
1) 入退館関連設備・機器	7
2) 学習環境関連設備・機器	7
① 閲覧机・椅子	7
② 書架	7
③ パソコンコーナー	7
④ 防犯カメラ	7
⑤ 身障者用施設	7
3) 空調・冷暖房設備	8
4) 照明	8
5) 建物・スペース等	8
① 本館等	8
6) その他	8
① 書庫	8
② トイレ	8
③ ブラウジングルーム	9
④ その他の設備	9
5. 資料の収集・保存	9
1) 学生用図書を選定と蔵書構築	9
① 選書方針	9
② 選書体制	9
③ 授業等への活用方法	10
④ 財源確保	11
2) 図書館資料の整理と提供	11
① 蔵書目録データベースの構築と蔵書検索サービス	11
② 図書目録情報の遡及入力	12

3) コレクション・図書の整備と提供	12
① 特別図書	12
② 貴重図書	12
③ 個人文庫	13
4) 外国雑誌・電子ジャーナルの整備と提供	13
① 外国雑誌購入方法検討と電子ジャーナル導入	13
② 「学術情報整備計画」の策定ー 個別の資料購入から共同購入体制へ	14
③ 共同購入資料の整備	14
④ E-only 化への転換	15
⑤ 今後の課題と問題点	15
5) 二次情報データベースの整備と提供	15
6) 資料・情報の収集・保存	16
① 修復・保存	16
② 重複資料の廃棄	17
③ 地震対策	17
6. サービス機能	17
1) 資料の利用	17
① 開館日・開館時間等	17
② 利用手続き等	18
③ 貸出・返却等	18
2) レファレンス・サービス	19
3) 学内図書館間の文献複写サービス	19
4) 図書館間協力(I L L)	19
5) 情報リテラシー教育の支援	20
① オリエンテーション・講習会	20
② 全学教育科目「大学生のための情報探索術」への協力	20
6) 授業支援(シラバス連携検索システムの構築等)	21
7) 研究支援	21
8) 留学生対応	21
7. 社会貢献	22
1) 教育研究成果等の発信	22
2) 図書館の地域開放	22
3) 展示会	22
① 企画展示及び講演会の開催	22
② 常設展	24
4) 国連寄託図書館等の機能の地域への貢献	24
8. 医学分館	24
9. 北青葉山分館	26
10. 工学分館	30
11. 農学分館	32
12. 金属材料研究所図書室	37
13. 電気通信研究所図書室	40
14. 多元物質科学研究所図書室	43
東北大学附属図書館の主要課題について	45
附属図書館の組織	46
附属図書館の中期目標・中期計画	47

第2部 利用者アンケート集計結果と分析

1. 附属図書館利用者アンケートの概要	59
2. 基本調査	59
3. アンケートの集計結果	62
3.0 集計方法	62
3.1 全体概要	62
3.2 本館	64
3.3 医学分館	68
3.4 北青葉山分館	72
3.5 工学分館	76
3.6 農学分館	80
3.7 金属材料研究所図書館	83
3.8 電気通信研究所図書室	83
3.9 本館・4分館・図書室共通	84
参考資料 利用者アンケート集計結果(利用者区分別)	85
参考文献	88
• 利用者アンケート(Web画面)	89
• 利用者アンケート回答票(用紙)	97

第3部 資料編—平成17年度年次報告

I. 概 要

1. 沿革(年表)	99
2. 歴代館長・副館長・分館長	104
3. 歴代部課長・事務長	109
4. 商議会商議員	111
5. 組織及び職員	112
6. 蔵書・資料費・特殊コレクション	114
7. 利用対象在籍者数	119
8. 施設	120
9. 利用者用端末台数	125

II. 活動状況

1. 一年の歩み	126
2. 所蔵冊数	130
3. 資料の収集	133
4. 電子的サービス	135
(1) 電子的コレクション	135
(2) 電子的レファレンス	135
5. 開館状況	136
6. 利用統計	137
(1) 入館者	137
(2) 資料の貸出	138
(3) 参考調査	140
(4) 文献複写	142
(5) 図書館間相互利用	143
7. 利用指導	144
8. 見学者等	147
9. 職員研修	148
10. 刊行物	149
11. 諸報告	150

III. 中期目標・中期計画

国立大学法人東北大学附属図書館中期目標・中期計画一覧	151
----------------------------	-----